

令和元年度第1回経営協議会 議事要旨

日 時 令和元年5月27日（月） 14時30分～16時00分
場 所 事務棟第二会議室
出席者 和田学長，江頭理事，鈴木理事，近藤副学長
上林委員，榊原委員，佐藤委員，福田委員，舟本委員
欠席者 杉江委員，佐山委員
陪席者 海老名理事，石橋監事，小嶋監事，小嶋事務局長

議事に先立ち，和田学長より陪席者である小嶋事務局長の紹介が行われた後，前回（3月11日）開催の平成30年度第6回経営協議会の議事要旨の確認が行われた。

報 告 事 項

1. 2019年度入学者選抜結果について

鈴木理事から，報告資料1に基づき，2019年度入学者選抜結果について報告があった。

なお，委員からは，主として以下のような意見等があった。

- 緑丘会では，道外出身者が大幅に減っていることについて強い危機感を持っており，緑丘会と大学の間で設置しているブランド推進委員会等において，なんとかこれを増やそうという動きをしているところである。実態としては，小樽商科大学の認知度が低く，存在自体が全国的に知られていないのだと思うが，この状況について深刻に考えるべきである。小樽商科大学の特徴，アピールすべき点を大学として強く持つ必要がある。例えば，小樽は地理的・歴史的に，全国で最も北方経済圏（ロシア・中国北東部等）と強い関係を持てる環境にある。今回の経営統合を契機に，技術系・農業系・経営系の三つを持ちつつ，北方経済圏との関係を強めていく等の方向性を打ち出さないと，いくら道外試験場を設置しようと，道外出身者は増えないのではないかという危機感を持っている。ぜひ，この危機感を共有していただきたい。

北海道大学をはじめ道内他大学は道外学生を多数獲得しており，北海道そのものには非常に魅力があるはずである。小樽商科大学にもっと強いアピールできる魅力をどう作るかが重要である。

- 現実として，受験生が小樽商科大学をどういう水準で見ているのか，また，進路指導教員が小樽商科大学を推薦する基準をどう考えているのか，卒業生を採用する企業等の人事担当者が小樽商科大学の卒業生を採用して，その後の成長度合いを見て，どういうイメージを持っているのか，これらの実態を知らずに，思い入れだけで議論しても仕方がない。今一度冷静になって，小樽商科大学が外部からどう見られているのかきちんと把握したうえで，対策を考えていくことが必要である。予算の問題もあると思うが，そ

の点については手付かずの状況なのではないだろうか。

2. 大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻に対する認証評価結果について

和田学長から、報告資料2に基づき、大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻に対する認証評価結果について報告があった。

3. 役員に係る令和元年6月期期末特別手当について

和田学長から、役員に係る令和元年6月期期末特別手当について、増減しないこととした旨報告があった。

4. 2019年度国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）の交付決定について

和田学長から、報告資料4に基づき、2019年度国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）の交付決定について報告があった。

5. 最近のトピックスについて

和田学長から、報告資料5に基づき、最近のトピックスについて報告があった。

その他

和田学長から、次回の経営協議会については、6月17日（月）14時30分から開催する予定である旨、発言があった。なお、緊急の案件が生じた場合には、急遽、会議を招集させていただくことも想定されるので、その場合には、会議の開催日程を調整させていただきたい旨、併せて発言があった。

以 上